

家庭の友

2
2021

特集 聖地巡礼・ルルド[®]

ルルドの泉、その源流への旅

(ヌヴェール愛徳修道会) シスター片山秀代

ルルドの魅力

(ヨーロッパ・カトリック聖地巡礼センター) 松村和人

ルルド巡礼で味わうこと

(株アマタイトラベル) 野口善雄



サンパ白ロ

ルルドの魅力

(ヨーロッパ・カトリック聖地巡礼センター)

松村 和人

日本からルルドへは国際線でフランス・パリ⇨シャルルド・ゴール空港へ、その後、国内線に乗り継いでツールーズまで、そしてバスでルルドへ二時間半の行程、またはパリ⇨シャルルド・ゴール空港からパリ⇨オリ空港へバスで移動、その後国内線でポー・ピレネー空港へ、空港からルルドまではバスで三十分の行程、他にはタルブ・ルルド・ピレネー空港がありますが、便数も少なく冬には欠航も多いようです。これはあくまでも、現在日本からの巡礼者が多く利用されているルートですが、私たちがルルド巡礼を始めた三十年前には、パリまで国際線の飛行機を利用してパリで一泊、翌日パリ⇨モンパルナス駅からTGV（フランス新幹線）でルルドへ向かう行程でした。列車ではルルドまで約五時間、



日本の新幹線とあまり変わりなく、各車両には荷物スツッカーが収納できるスペースも整っており、快適な列車の旅でした。但しビュッフェは狭く、食事をゆっくり座って取るということができず、いつもモンパルナス駅に少し早く到着し、駅構内でお昼ご飯を調達、列車に乗り込むように心掛けていました。パリ⇨モンパルナス駅を出発し、三十分もたたないうちに車窓からの景色は一転、フランスの田園風景と中世の街並みがメルヘンの世界へと誘ってくれます。お昼近くになるとワインと美食の町ボルドー、ガロンヌ川を渡るとあの



巡礼団

エッフェルが建設工事を指揮して作ったと言われるボルドー⇨サン＝ジャン駅に到着、私たちもモンパルナス駅で調達したお弁当で昼食です。ここから列車は、車窓の右手にピレネー山脈、左手に田園風景を眺めながら小さな町中にある教会の鐘楼を見つけては、静かにアベマリアを唱えるのが列車での過ごし方でした。あと一時間ほどでルルド、その前に列車はポー駅に到着。ポーはパリ⇨オリ空港からルルドまで飛行機で行くコースで、ポー・ピレネー空港がある所です。そこから列車は、私たちの最終地



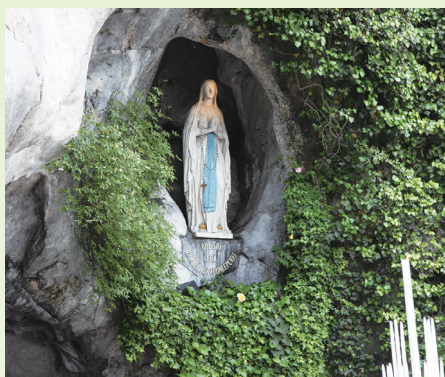
聖母御出現後のルルド聖域



聖域

ルルドへ向けて出発。

最初、私が列車でルルドを訪れた時、少し不安を覚えたのがポーを出発し、しばらくしてか



グロット



ルルド源泉



ろうそく行列



ろうそく行列

らのことでした。ルルドはピレネーの谷合にある山村と聞いていましたが、列車はまだフランスの田園風景の中、ピレネーの山も遠くにあり、列車を間違えたのかとても不安になりました。しかし、到着三十分前ぐらいになると急に、列車は小さな川（ボー川）に沿って進み、見る見るうちに山あい深く、今までは全く違った光景になり、まるで別世界に引き込まれていくような思いを覚えていきます。到着数分前に、右手に修道院と思われる建物が見え始め、ルルドの聖域、教会、グロット（マツサビエルの洞窟）が目に入った

時は感動でした。そうしているうちにルルド駅に到着。駅から宿泊する修道院までは徒歩十五分、タクシー、バスで五分から十分の距離にあります。私たちの滞在は、スペイン系の修道会が経営する女子修道院で、小教区の教会（サクレ・クール教会）のすぐそばにあります。シスター方に挨拶をしてから、早速ルルドをご案内いたしました。①サクレ・クール教会。ベルナデッタの洗礼盤とパイプオルガンが有名で、毎年五月、巡礼でマリア様に捧げるコンサートとミサがこの教会で行われます。②カ

シヨ（牢獄跡）。一八五七年の冬から一年間、ベルナデッタ一家が住んだ牢獄跡で、今でも警察の隣にあります。③ボーリーの水車小屋（ベルナデッタ生家）。④聖域。ロザリオ大聖堂、地下聖堂（クリプト）、無原罪の御宿り大聖堂（上部聖堂）、マツサビエルの洞窟、泉と沐浴場、聖ピオ十世地下大聖堂、聖ベルナデッタ教会と主な巡礼コースを巡り、時間に余裕があれば、サクレ・クール教会の方に戻り、⑤昔の司祭館、ベルナデッタが「聖堂を建て」「行列するように」という聖母のことばを、ルルドの主任司祭であったペイラマル神父に

伝えた時の司祭館。⑥ホスピス。ベルナデッタがスヴェール愛徳修道会の修道院に入るまでの間暮らしたのが、このホスピスでした。そして聖域で行われる聖体行列と夜のろうそく行列があります。これは一般的な巡礼コースですが、今回あまり巡礼者が訪れないスポットをご紹介します。Chateau fort de Lourdes（フォート城）。ルルドの中心に位置し、岩山の上に立つ城です。巡礼者は聖域、教会がお目当てですので、フォート城も教会と写真で見える方が多いようですが、写真は、ここからのスポットです。

フォート城へは、カシヨー、ルルド警察の近くに有料エレベーターがあり、簡単に上ることができます。

また巡礼者にとって、巡礼地での祈りは大切です。ルルドの夏は、あまりにも巡礼者が多いのでゆつくり祈り、黙想するのは難しいのですが、マッサビエルの洞窟とガブ川を挟んで、聖ベルナデッタ教会の方に行くと、数万人が可能な芝生の広場と修道院が立ち並ぶエリアがあります。聖ベルナデッタが最後のご出現の日にはたずんでいた場所で、教会の鐘の音を聞きながら、静



フォート城

かに黙想の一時を過ごすことができます。時間の許す方は、聖域の裏山にある十字架の道行を体験してみても如何でしょうか！一時間から二時間の行程です。また長期滞在の方は、バルトレス村へのハイキングがお勧めです。ルルドから約4km。静かなバルトレスの村は、今もベルナデッタが預けられていた乳母の家や納屋、羊小屋が残っていて、見学することができます。静かな山村は、ベルナデッタが暮らしていたころのままで、時が止まっているように思えます。



十字架の道行

年前、一人の自閉症の青年との旅から始まります。多くを語らない彼がミサの最中、「また来年もマリア様に会いにルルドに来ます」と言った言葉が、毎年ルルド巡礼を計画するきっかけとなり、現在も続いています。また二〇一五年、二十五周年記念巡礼に参加された巡礼者の中で、治癒の御恵みがありました。ルルドのサクレ・クール教会主任神父の紹介で、ルルド医学検証所のドクター Alessandro de FRANCISCO にお会いすることができ、日本人で初めて医学検証の許可がおりました。年間六百万人の巡礼者が



バルトレス村

訪れるルルドで、「ルルドの奇跡」として認定されたのは七十名。「毎年、巡礼者の数は増え続けているのが現状で、他の巡礼地との違いは、巡礼者を受け入れる体制ができていること、そして多くの方に、精神的な癒やし（心の癒やし）があるのではないかと」ドクターのお話でした。聖母マリアがベルナデッタに話されたメッセージの中に、「私は人々に巡礼としてここに来てほしいのです」という言葉があります。全ての人々がこのルルドに招かれています。それでは、良い巡礼を体験ください。



ルルド医学検証所にて